

## 研究概要

### 1. 研究名称 または課題名テーマ等

高齢者の転倒体験の解明

### 2. 研究責任者(当院)

所属： 聖隷佐倉市民病院 看護管理室

氏名：高木智美

### 共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：無

代表名：無

### 3. 分担研究者

所属：聖隷佐倉市民病院 B5 病棟

氏名：鎌田佳子

### 4. 研究対象者

2020 年 7 月 20 日～2021 年 7 月 20 日の間に、聖隷佐倉市民病院において〔75 歳以上の入院中に 2 回以上転倒があった患者〕、且つ個別に同意書に署名された方。

### 5. 研究の必要性

看護師が患者の転倒を防ぐために多くの時間を使い転倒予防対策を講じているにもかかわらず、入院中の患者の中には転倒を繰り返す高齢者が存在する。移動時に看護師を呼んでもらうように説明を繰り返しても看護師を呼ばず一人で動く患者や患者の移動を把握するための離床センサーを床に設置してもそれをまたぎ一人で動き転倒する患者がいる。

過去の多くの転倒予防に関する研究では、転倒リスク要因修正の介入により転倒予防の有効性を明らかにしてきている。また、中村は、転倒を繰り返す高齢者の再転倒後における転倒恐怖感が与える影響について、加齢の認知による自律への自信喪失やあきらめなどを明らかにしている。しかし、これまでの研究は、自信喪失やあきらめがあっても看護師を呼ばずに歩いてしまい転倒を繰り返す患者の体験については明らかにしていない。そのため、高齢者が繰り返す転倒への予防やケア開発のために高齢者が繰り返す転倒体験が高齢者にとってどのような意味を持つ体験が明らかにする必要がある。

### 6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究では、75 歳以上で入院中に 2 回以上転倒があった患者へ過去からの転倒体験を語ってもらうことと、診療録より、年齢、性別、病名、身体状況（入院までの経過、入院後の経過）、入院までの転倒回数と状況、入院後の転倒回数と状況についてデータを収集させてもらう。そのことでの対象者への影響としてはインタビューを行うことの影響が考えられる。インタビューは、30 分程度を要するため、インタビューによる疲労感と過去の転倒を想起することへの心的影響があることが予測される。そのため、患者の体調を確認しながら行い、体調変化が見られた場合や患者より中断の意思があった時にはすぐに終了する対応を行う。

医学上の貢献の予測については、本研究により入院中の高齢者が繰り返す転倒体験が高齢者にとってどのような意味を持つ体験なのか明らかにすることで、高齢者が繰り返す転倒への予防やケアについての示唆を得られると考える。

### 7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：053-436-1251 PHS2500

担当者氏名：高木智美

対応時間：平日 8：30～17：00

#### ※ご注意

対象者とは、本研究に参加された方です。  
お問合せは、本研究に参加された方と  
研究関係者のみで、その他の方へのご対応  
はできませんので、予めご了承願います。